

神奈川地域(15)面  
七堂伽藍跡碑60年で式典

## 歴史的遺産 後世に

茅ヶ崎

茅ヶ崎市下  
寺尾の国指定  
「下寺尾官衙遺跡群」

の歴史をひもとくきっかけとなった七堂伽藍跡碑の建碑60周年を祝う式典が16日、同所で開かれた。建立に携わった家族らも参加し、当時の活動に思いを寄せた。

高さ約3メートルの碑は、近くに大寺院があったと考えた地元住民や郷土歴史家ら142人が中心となり1957年に建立。発起人会の趣意書には「偉大な遺産を後世に伝えることが吾等に課せられた急務」とある。

78年に考古学者・岡本勇氏の調査で古代寺院跡と判明。その後、相模国高座郡衙や船着き場、祭祀場などが発見され、同所が地方行政の中心地だったことが明らかになった。七堂伽藍跡を含む下寺尾官衙遺跡群は2015年、国史跡に指定

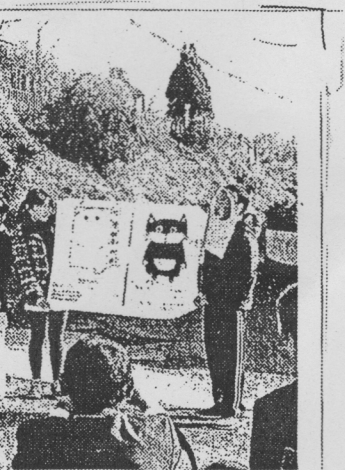
された。

式典で服部信明茅ヶ崎市長は「碑が大切な歴史的価値を多くの人に伝えるスタートとなった」と話し、記念事業実行委員会の矢野福德会長(77)は「後世に伝えていくことが私たちの役割だ」と強調。建碑当時の除幕式にも参加した丹羽元司さん(82)は「昔は農道で何



もない土地だった。地元の方が草取りなど手入れをしたことで、いまの碑がある」と感慨深げに語った。

(松島 佳子)



設置60年

1957年に建てられた七堂伽藍跡碑の式典で遺跡の学習結果を発表する茅ヶ崎市立小出小学校6年生の児童ら  
―同市下寺尾